

宮 崎 県 感 染 症 週 報

宮崎県健康増進課感染症対策室・宮崎県衛生環境研究所

宮崎県第28週の発生動向

□ 全数報告の感染症 (28週までに新たに届出のあったもの)

1 類感染症：報告なし。2 類感染症：結核 8 例。3 類感染症：腸管出血性大腸菌感染症 4 例。
4 類感染症：デング熱 1 例。5 類感染症：水痘 (入院例) 1 例、百日咳 6 例。

	疾患名	報告 保健所	年齢群	性別	病型・類型	症状等
2類	結核	宮崎市	30歳代	男	肺結核	—
			80歳代	男	肺結核	咳、痰
		都城	70歳代	女	肺結核	痰、発熱、呼吸困難
		高鍋	40歳代	女	肺結核	—
			50歳代	女	無症状病原体保有者	—
			50歳代	女	無症状病原体保有者	—
			50歳代	女	無症状病原体保有者	—
			70歳代	男	肺結核	—
3類	腸管出血性大腸菌 感染症	都城	5~9歳	男	—	腹痛、軟便、O-111(VT1、2)
			20歳代	男	—	腹痛、O-111(VT1、2)
			20歳代	女	—	腹痛、水様性下痢、嘔吐、発熱、 O血清群不明(VT1、2)
		延岡	10歳代	男	—	腹痛、血便、O-26(VT1)
4類	デング熱	都城	40歳代	男	デング熱	発熱、2日以上続く発熱、発疹、 血小板・白血球減少、海外渡航歴あり
5類	水痘(入院例)	日南	80歳代	女	臨床診断例	発熱、発疹
	宮崎市	10歳代	男	—	持続する咳、夜間の咳き込み	
		10歳代	男	—	持続する咳	
	都城	0~4歳	女	—	夜間の咳き込み	
		5~9歳	男	—	持続する咳、夜間の咳き込み	
		10歳代	女	—	夜間の咳き込み	
	高鍋	0~4歳	男	—	持続する咳、夜間の咳き込み、 スタック	

□ 定点把握の対象となる 5 類感染症

・定点医療機関からの報告総数は 570 人(定点当たり 16.8)で、前週比 97%とほぼ横ばいであった。なお、前週に比べ増加した疾患はRSウイルス感染症と咽頭結膜熱及びヘルパンギーナで、減少した主な疾患は感染性胃腸炎と手足口病であった。

★インフルエンザ・小児科定点からの報告★

【咽頭結膜熱】

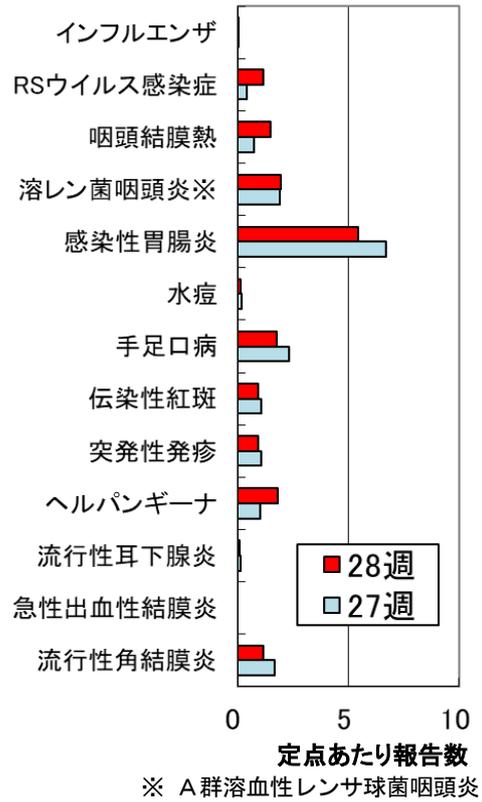
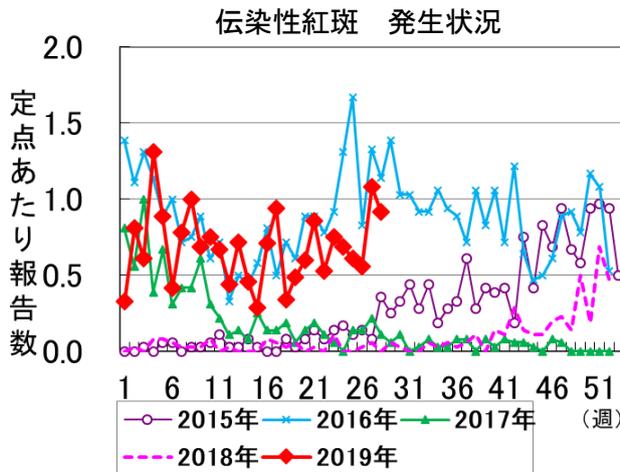
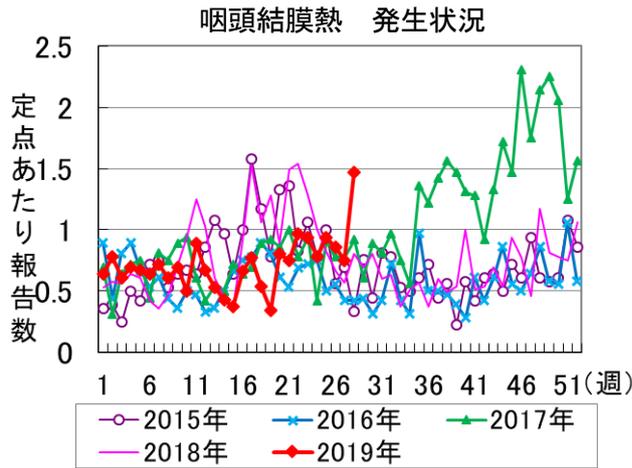
報告数は 53 人(1.5)で、前週比 196%と増加し、例年同時期の定点当たり平均値*(0.67)の約 2.2 倍である。日南(7.0)、高鍋(1.8)、宮崎市(1.5)保健所からの報告が多く、年齢群別では 1~4 歳が全体の約 6 割を占めている。

【伝染性紅斑】

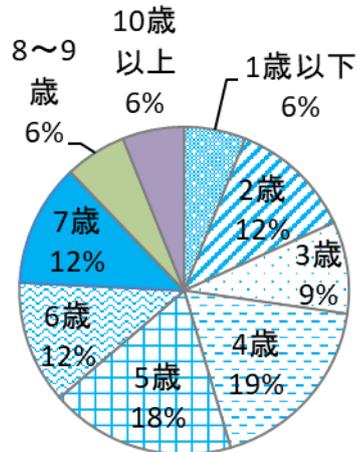
報告数は 33 人(0.92)で、前週比 85%と減少したが、例年同時期の定点当たり平均値*(0.35)の約 2.6 倍である。延岡(2.5)、日向(1.5)、日南(1.3)保健所からの報告が多く、年齢群別は別グラフに示す。

* 過去 5 年間の当該週、前週、後週 (計 15 週) の平均値

《前週との比較》



伝染性紅斑 年齢群別割合



★基幹定点からの報告★ 報告なし。

★保健所別 流行警報・注意報レベル基準値超過疾患★

保健所名	流行警報・注意報レベル基準値超過疾患
宮崎市	なし
都城	なし
延岡	伝染性紅斑(2.5)
日南	咽頭結膜熱(7.0)
小林	なし
高鍋	なし
高千穂	なし
日向	なし
中央	なし

* 流行警報レベル開始基準値*

- ・咽頭結膜熱(3.0)
- ・伝染性紅斑(2.0)

□病原体検出情報 (衛生環境研究所微生物部 令和元年7月16日までに検出)

★細菌

同定細菌名	年齢	性別	採取月日	臨床症状等	検出材料	同定日
Salmonella Schwarzengrund (O4:d:1,7)	30歳代	女	2019.06.17	無症状	便	2019.07.02
EPEC(O115:HNM)	70歳代	男	2019.06.25	水様性下痢	便	2019.07.03
EPEC(O26:HUT)	0~4歳	女	2019.06.26	胃腸炎(下痢、腹痛)	便	2019.07.16
EHEC(O111:HNM VT1,2)	0~4歳	男(9)、女(6)	2019.06.27 ~ 2019.07.09	下痢・腹痛等(10)、無症状(2)、不明(3)	便	2019.07.01 ~ 2019.07.12
	5~9歳	男(1)、女(1)		下痢(2)		
	20歳代	女(4)		軟便(1)、無症状(3)		
	30歳代	男(4)		下痢(3)、無症状(1)		
	50歳代	女(2)		無症状(2)		
60歳代	女(1)	軟便(1)				

○腸管出血性大腸菌（EHEC）が28件分離され、いずれもEHEC 0111（VT1,2）であった。分離された28件のうち11件は成人からの分離で過半数は無症状であった。一般的に乳幼児や高齢者は感染後の発症率や発症後の重症化率が高くなる傾向にある。したがって、乳幼児や高齢者が集団生活を送る施設では手洗いの励行等、衛生管理が特に重要である。保育施設においては、厚生労働省発行の、2018年3月改訂の保育所における感染症対策ガイドラインを参考にされたい。

★ウイルス

同定ウイルス名	年齢	性別	採取年月日	臨床症状等	検出材料	分離・検出日
ライノウイルス	0～4歳	女	2019.04.22	発疹、39.0℃、咽頭炎、扁桃炎、 気管支炎	咽頭ぬぐい液	2019.07.05
コクサッキーウイルスA6型	0～4歳	女	2019.05.08	急性気管支炎、40.0℃、熱性けいれん	鼻汁	2019.07.05
ヒトパレコウイルス3型	0～4歳	女	2019.05.05	丘疹、口内炎	咽頭ぬぐい液	2019.07.04
ヒトパレコウイルス3型	0～4歳	女	2019.05.07	丘疹、紅斑、口内炎	咽頭ぬぐい液	2019.07.04
ヒトパレコウイルス3型	0～4歳	男	2019.05.09	丘疹、紅斑	咽頭ぬぐい液	2019.07.04
ヒトパレコウイルス3型	0～4歳	女	2019.06.28	新生児発熱、髄膜炎疑い、39.1℃、 ショック症状（循環不全）	鼻汁 髄液	2019.07.04
ヒトパレコウイルス	0～4歳	女	2019.05.10 2019.05.12	発疹、新生児発熱、40.0℃、 ショック症状（循環不全）	咽頭ぬぐい液、 便、髄液	2019.07.04
デングウイルス	40歳代	男	2019.07.12	40℃、丘疹、肝機能障害、胃腸炎	血清	2019.07.12

○0～3歳の新生児及び小児5名からヒトパレコウイルスが検出され、そのうち4例は3型（HPeV-3）であった。HPeV-3の病態は様々で、不顕性感染の場合もあり、無症状のまま便や咽頭からウイルスを排泄する。生後3ヶ月以上の小児においては、呼吸器症状、消化器症状、発疹などが見られる。新生児及び早期乳児においては、髄膜炎、脳炎、敗血症など重篤な症状を呈し、呼吸不全や循環不全、痙攣重積により集中治療を要する場合もある。流行期は夏であり、今後の動向に注意を要する。

○海外渡航歴のある成人男性からデングウイルスが検出された。デングウイルスはデング熱やデング出血熱の原因ウイルスであり、当該ウイルスを保有するヒトスジシマカに刺されることにより感染する。

🇯🇵 全国 2019 年第 27 週の発生動向

□ 全数報告の感染症（全国第27週）

1類感染症	報告なし					
2類感染症	結核	389 例				
3類感染症	細菌性赤痢	1 例	腸管出血性大腸菌感染症	144 例	パラチフス	1 例
4類感染症	E型肝炎	5 例	A型肝炎	6 例	重症熱性血小板減少症候群	5 例
	つつが虫病	2 例	デング熱	9 例	日本紅斑熱	3 例
	マラリア	1 例	レジオネラ症	58 例		
5類感染症	アメーバ赤痢	10 例	ウイルス性肝炎	4 例	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	25 例
	急性弛緩性麻痺	2 例	急性脳炎	9 例	クロイツフェルト・ヤコブ病	1 例
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	15 例	後天性免疫不全症候群	12 例	ジアルジア症	1 例
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	7 例	侵襲性肺炎球菌感染症	27 例	水痘（入院例）	3 例
	梅毒	78 例	播種性クリプトコックス症	4 例	破傷風	4 例
百日咳	320 例	風しん	28 例	麻しん	10 例	

□ 定点把握の対象となる5類感染症

定点医療機関当たりの患者報告総数は前週比117%と増加した。なお、前週と比較して増加した主な疾患は手足口病とヘルパンギーナで、減少した主な疾患はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎と水痘である。

手足口病の報告数は31,065人(9.8)で前週比146%と増加し、例年同時期の定点当たり平均値* (3.0)の約3.3倍である。福井県(31.1)、石川県(26.8)、三重県、香川県(各17.1)からの報告が多く、年齢群別では1～2歳が全体の約6割を占めている。

ヘルパンギーナの報告数は6,720人(2.1)で前週比147%と増加し、例年同時期の定点当たり平均値* (2.2)と同程度である。三重県(4.5)、山口県、熊本県(各4.2)からの報告が多く、年齢群別では1～2歳が全体の約半数を占めている。

* 過去5年間の当該週、前週後週（計15週）の平均値

月報告対象疾患の発生動向 <2019年6月>

□性感染症

【宮崎県】 定点医療機関総数：13

定点医療機関からの報告総数は40人(3.1)で、前月比138%と増加した。また、昨年6月(2.5)の125%である。

《疾患別》

○性器クラミジア感染症：報告数27人(2.1)で、前月の約1.3倍、昨年6月の約1.2倍である。

20歳代が全体の約6割を占めている。(男性12人・女性15人)

○性器ヘルペスウイルス感染症：報告数3人(0.23)で、前月と同率、昨年6月の0.6倍である。

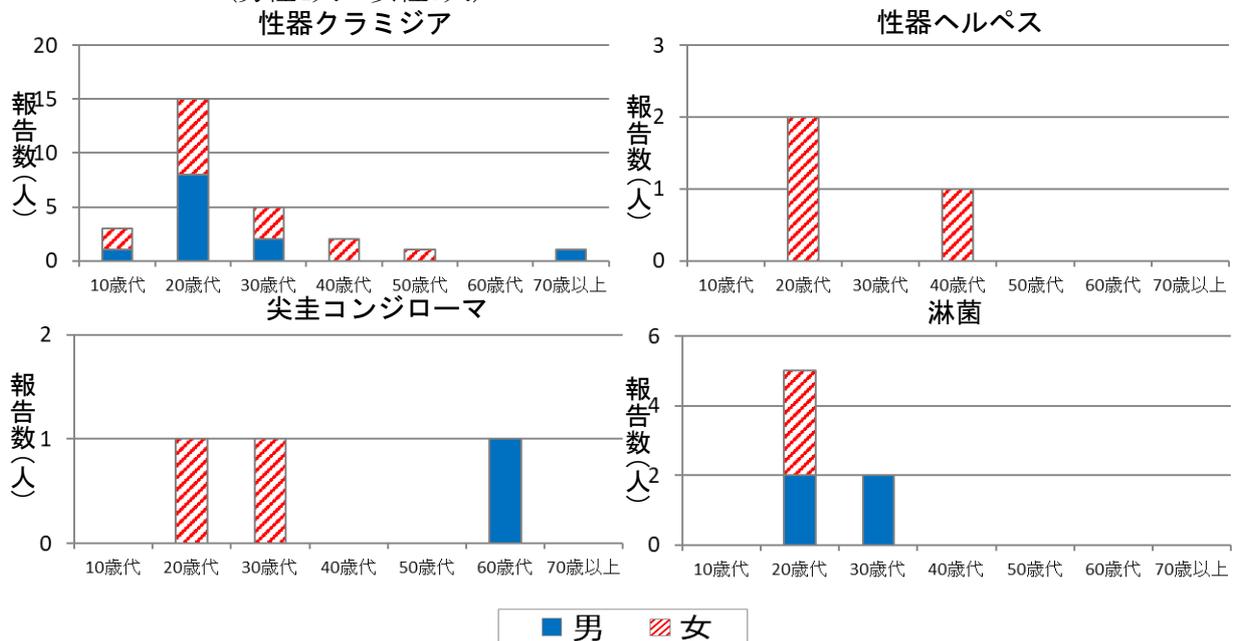
(女性3人)

○尖圭コンジローマ：報告数3人(0.23)で、前月の3.0倍、昨年6月の1.5倍である。

(男性1人・女性2人)

○淋菌感染症：報告数7人(0.54)で、前月の約1.8倍、昨年6月の約2.3倍である。

(男性4人・女性3人)



【全国】 定点医療機関総数：980

定点医療機関からの報告総数は4,251人(4.3)で、前月比102%とほぼ横ばいであった。疾患別報告数は、性器クラミジア感染症2,274人(2.3)で前月比104%、性器ヘルペスウイルス感染症771人(0.79)で前月比99%、尖圭コンジローマ565人(0.58)で前月比112%、淋菌感染症641人(0.65)で前月比92%である。

□薬剤耐性菌

【宮崎県】 定点医療機関総数：7

定点医療機関からの報告総数は15人(2.1)で、前月比83%と減少した。また、昨年6月(2.4)の88%である。

《疾患別》

○メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症：報告数15人(2.1)で、前月の約0.8倍、昨年6月の約0.9倍である。70歳以上が全体の約7割を占めている。

○ペニシリン耐性肺炎球菌感染症：報告なし。

○薬剤耐性緑膿菌感染症：報告なし。

【全国】 定点医療機関総数：477

定点医療機関からの報告総数は1,438人(3.0)で、前月比97%と横ばいであった。疾患別報告数は、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症1,284人(2.7)で前月比98%、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症147人(0.31)で前月比91%、薬剤耐性緑膿菌感染症7人(0.01)で前月比33%である。

宮崎県 感染症情報

(72定点医療機関)

2019年 第28週(07月08日~07月14日)

疾病名		第27週	第28週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
インフルエンザ	報告数	3	1								1	
	定点当り	0.05	0.02	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.17	0.00
RSウイルス 感染症	報告数	15	41	11	6	20			2		2	
	定点当り	0.42	1.14	1.10	1.00	5.00	0.00	0.00	0.50	0.00	0.50	0.00
咽頭結膜熱	報告数	27	53	15	3	5	21	2	7			
	定点当り	0.75	1.47	1.50	0.50	1.25	7.00	0.67	1.75	0.00	0.00	0.00
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	報告数	69	70	26	12	9	3	7	5		8	
	定点当り	1.92	1.94	2.60	2.00	2.25	1.00	2.33	1.25	0.00	2.00	0.00
感染性胃腸炎	報告数	242	196	43	37	8	18	29	21	3	29	8
	定点当り	6.72	5.44	4.30	6.17	2.00	6.00	9.67	5.25	3.00	7.25	8.00
水痘	報告数	7	5	1			2		2			
	定点当り	0.19	0.14	0.10	0.00	0.00	0.67	0.00	0.50	0.00	0.00	0.00
手足口病	報告数	84	63	31	10	4	2	4	3		5	4
	定点当り	2.33	1.75	3.10	1.67	1.00	0.67	1.33	0.75	0.00	1.25	4.00
伝染性紅斑	報告数	39	33	11	1	10	4		1		6	
	定点当り	1.08	0.92	1.10	0.17	2.50	1.33	0.00	0.25	0.00	1.50	0.00
突発性発しん	報告数	38	33	7	4	7	3	3	5		3	1
	定点当り	1.06	0.92	0.70	0.67	1.75	1.00	1.00	1.25	0.00	0.75	1.00
ヘルパンギーナ	報告数	37	65	6	34	5	3		1		16	
	定点当り	1.03	1.81	0.60	5.67	1.25	1.00	0.00	0.25	0.00	4.00	0.00
流行性耳下腺炎	報告数	5	3		1			1	1			
	定点当り	0.14	0.08	0.00	0.17	0.00	0.00	0.33	0.25	0.00	0.00	0.00
急性出血性結膜炎	報告数											
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00						
流行性角結膜炎	報告数	10	7	5	2							
	定点当り	1.67	1.17	1.67	1.00	0.00						
細菌性髄膜炎	報告数											
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
無菌性髄膜炎	報告数											
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
マイコプラズマ 肺炎	報告数											
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
クラミジア肺炎	報告数											
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	報告数											
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	

インフルエンザ定点:59、小児科定点:36(インフルエンザ定点を兼ねる)、眼科定点:6、基幹定点:7

●全数把握対象疾患累積報告数(2019年第1週~28週)

2類感染症	結核	127例(8)		
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	31例(4)		
4類感染症	E型肝炎	1例	A型肝炎	1例
	チクングニア熱	1例	つつが虫病	3例
	日本紅斑熱	3例	レジオネラ症	5例
5類感染症	アメーバ赤痢	2例	ウイルス性肝炎	1例
	急性弛緩性麻痺	1例	急性脳炎	3例
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	9例	後天性免疫不全症候群	1例
	水痘(入院例)	1例(1)	梅毒	13例
	破傷風	1例	百日咳	166例(6)
	麻しん	1例	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	8例
			クリプトスポリジウム症	1例
			侵襲性肺炎球菌感染症	9例
			播種性クリプトコックス症	1例
			風しん	1例

()内は今週届出分、再掲